

平成 29 年（2017 年）の十和田の火山活動

仙 台 管 区 気 象 台
地 域 火 山 監 視 ・ 警 報 セ ン タ ー

地震活動、噴気、地殻変動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○ 噴火警報・予報の状況、2017 年の発表履歴

2017 年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
-------------	-------------------

○ 2017 年の活動概況

- ・ 噴気などの表面現象の状況（図 1）
銀山に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。
- ・ 地震や微動の発生状況（図 2）
火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。
- ・ 地殻変動の状況（図 3、図 5）
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料は、気象庁のデータの他、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。

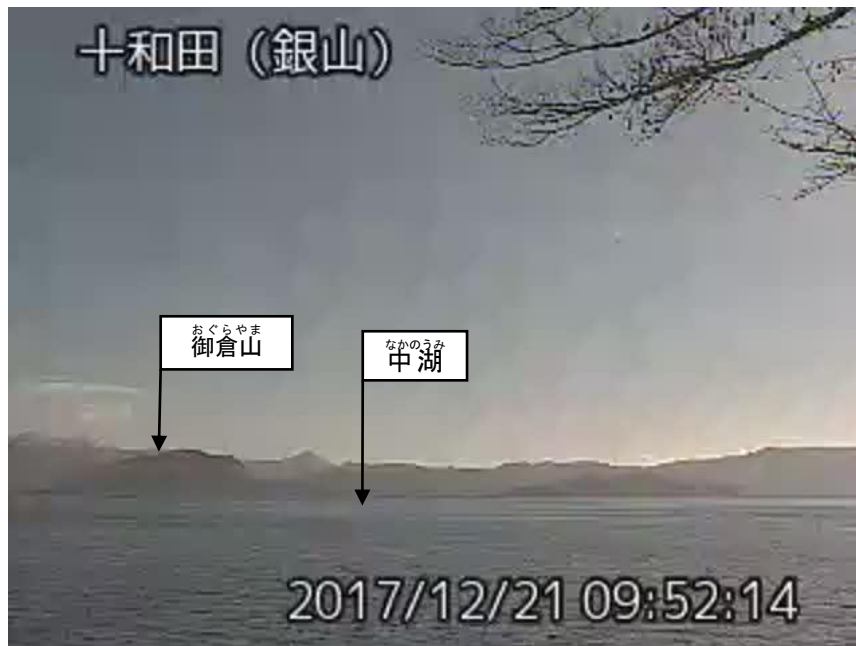


図 1 十和田 中湖周辺の状況 (12 月 21 日)
・ 銀山 (中湖の北西約 6 km) に設置している監視カメラの映像です。

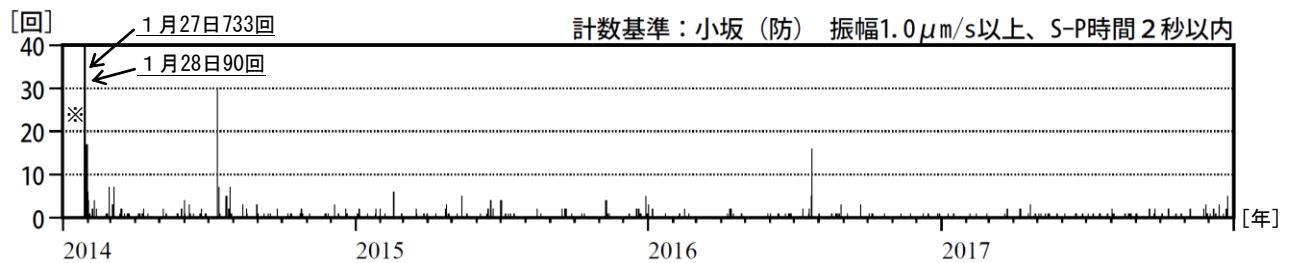


図 2 十和田 日別地震回数 (2014 年 1 月～2017 年 12 月)
※2014 年 1 月 27 日より計数を開始しました。

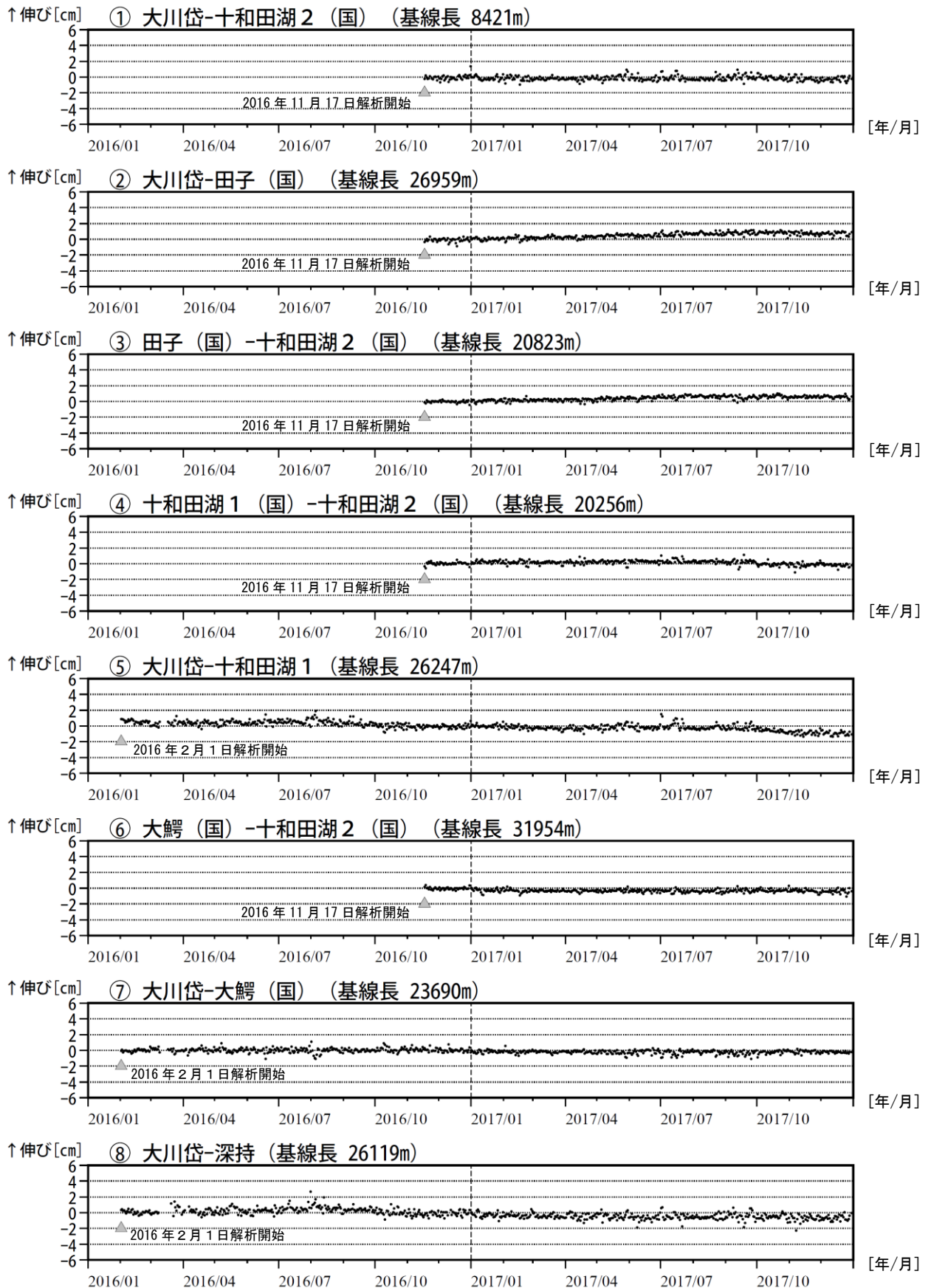


図 3 十和田 GNSS¹⁾ 基線長変化図 (2016 年 2 月～2017 年 12 月)

- ・空白部分は欠測を示します。
- ・①～⑧は図 5 の GNSS 基線①～⑧に対応しています。
- ・(国) は国土地理院の観測点を示します。
- ・大川岱観測点及び深持観測点は 2016 年 12 月 1 日に運用を開始しています。
- ・2017 年 1 月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

1) GNSS とは Global Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

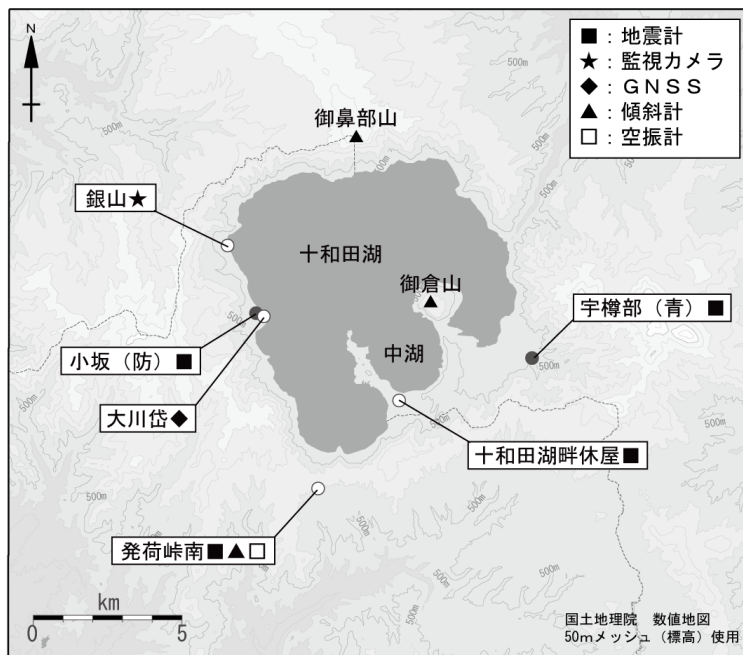


図 4 十和田 観測点配置図

・小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。(防)：防災科学技術研究所 (青)：青森県

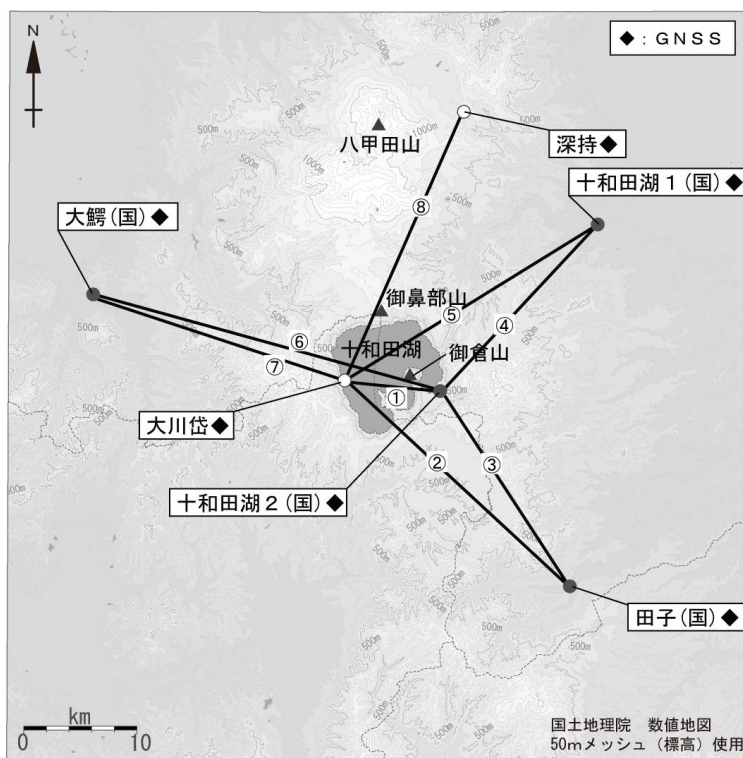


図 5 十和田 GNSS 観測点配置図

・小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。(国)：国土地理院

表 1 十和田 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高 (m)			
地震計	発荷峠南	40° 24.14'	140° 51.87'	599	-82	2016.12.1	短周期 3成分 ポアホール型
	十和田湖畔休屋	40° 25.76'	140° 53.84'	409	-2	2016.12.1	広帯域 3成分
空振計	発荷峠南	40° 24.1'	140° 51.9'	599	5	2016.12.1	
傾斜計	発荷峠南	40° 24.1'	140° 51.9'	599	-83	2016.12.1	
GNSS	大川岱	40° 27.3'	140° 50.6'	406	4	2016.12.1	2周波
監視カメラ	銀山	40° 28.6'	140° 49.7'	405	5	2016.12.1	可視カメラ